

ASEAN 工業団地ガイド

日本総合研究所

ベトナムの工業団地

～国内市場の成長が見込まれるベトナム

第 3 回

総合研究部門 山野 泰宏

ベトナムの工業団地の現状

ベトナムでは数多くの工業団地が整備されており、その数は全土で 200 を超える。多くは、ハノイやホーチミンなどの大都市近郊で供給されてきた。しかし、立地条件の良い工業団地は用地のひっ迫に伴い価格が高騰しており、近年は都市から 1.5～2 時間以上の場合所に立地する工業団地が増えている。

工業団地の供給主体をみると、その 8 割以上はベトナム国内のローカル資本によるものである(図表 1)これらは、電気や水などのインフラ整備水準が低く、中には土地売却で得た収入で次の区画を開発する、といった自転車操業的なものも少なくない。一方で数は少ないものの、日本やシンガポール、タイなどの外国資本により整備供給されている工業団地もある。これらの工業団地は比較的インフラ整備水準が高く、日本人や日本語の話せるベトナム人スタッフを常駐させることで品質の高いサービスを提供している。日系企業は、地価は高くてもこのような信頼できる工業団地に立地するケースが多い。

図表 1 ベトナムの工業団地統計(2010 年末時点)

	外資投資	国内投資	合計
工業団地数	40	221	261
活動中の工業団地数	23	150	173
プロジェクト数(企業)	3,962	4,377	8,339
登録額	536	335兆780億ドン (約168億ドル)	740億ドル
実行額	171億ドル	135兆9,500億ドン (約68億ドル)	240億ドル
生産額	305億ドル	57兆2,510億ドン (約28億6,255万ドル)	340億ドル
輸出額	—	—	190億ドル
輸入額	—	—	185億ドル
労働者数	—	—	160万人

出所: JETRO ハノイ事務所「ベトナム北部・中部工業団地データ集」(2013 年 7 月)

5 月半ばには、南シナ海での中国による石油掘削の動きから、ベトナム各地でデモが発生した。南部を中心に外資系の工業団地でも中国企業を襲う騒動が起き、被害に巻き込まれた日本企業もあったようである。中国企業でないと分かるとおとなしく撤退したとのことであるが、工業団地は利便性の高い反面、団地内に立地する他企業の影響を受けるデメリットを考慮し、立地先を選定することも重要である。

ベトナムへの投資と産業・経済の状況

この 10 年ほどのベトナムにおける国・地域別の対外直接投資(FDI)をみると、日本はコンスタントに 3 位以内に入っている。総投資額では 1 位であり(図表 2)、ベトナムへの最大の投資国となっている。

図表 2 FDI 新規認可 総投資額

国・地域	件数	構成比	総投資額*	構成比
日本	1,990	13.20%	32,667.10	14.90%
シンガポール	1,164	7.70%	28,299.10	12.90%
台湾	2,256	15.00%	27,428.90	12.50%
韓国	3,352	22.20%	25,514.90	11.70%
ブリティッシュバーズン諸島	512	3.40%	15,296.50	7.00%

出所: JETRO ハノイ「2013 年ベトナム一般概況」2013 年 6 月
*単位は百万 US ドル

これまで、日系企業はチャイナリスクを避け、その移転先として低廉で勤勉な労働力を利用できるベトナムを選択してきた経緯から輸出加工型の業態が多く、ベトナムの国内市場をターゲットとする企業進出は一部にとどまっている。

ベトナムの品目別の輸出額(図表 3)をみると、労働集約産業である縫製品・履物の構成比が高いものの、コンピュータ電子製品や輸送機器などの構成比が増加しつつあり、日系企業もその拡大に貢献している。なお、著しい伸びを示している電話機・同部品は、2009 年に生産を開始したサムスンによるスマートフォンの輸出がその大部分を占めている。

図表 3 主要品目別輸出額

	2011 年	2012 年	
	金額	金額	構成比
縫製品	14,043	15,093	13.20%
電話機・同部品	6,886	12,717	11.20%
原油	7,241	8,224	7.20%
コンピュータ電子製品・同部品	4,670	7,838	6.80%
履物	6,549	7,262	6.30%
水産物	6,112	6,093	5.30%
機械設備・同部品	4,160	5,537	4.80%
木材・木製品	3,955	4,666	4.10%
輸送機器・同部品	2,354	4,580	4.00%
コメ	3,657	3,673	3.20%
合計(その他含む)(FOB)	96,906	114,573	100.00%

出所: ベトナム税関総局より日本総研作成

ベトナムは約 8,878 万人の人口を擁するが(2012 年)、一人あたり GDP は 1,520 米ドル(約 15 万 6,000

円)という水準である。ただし、図表4の通りホーチミン市やハノイ市といった大都市圏に限ってみると、一人あたりGDPはかなり状況が異なる。特にホーチミン市では、自動車が普及するとされている3,000米ドルを大きく超える状況となっており、その人口集積と相まって、一定の国内市場が期待される。ただし、輸出産業と異なり、国内市場向けの企業進出にあたっては、ベトナム政府の行政指導が不透明な部分がリスクとの指摘もあり、その点に十分留意する必要があるものの、今後はベトナムの市場を狙った企業進出の可能性は十分に考えられる。

図表4 ホーチミンとハノイの比較

	ホーチミン市	ハノイ市	ベトナム全体
人口 (2012)	775万人	692万人	8,878万人
GDP成長率 (2012)	9.20%	8.10%	5.02%
一人当たりGDP (2012)	US\$3,870	US\$2,240	US\$1,520

出所: General Statistics Office of Vietnam and HCMC/Hanoi homepages

今後と日系企業のベトナム進出

当連載の第1回タイ編でも触れた通り、2015年に予定されているASEAN経済統合以降、国境というハードルが徐々に下がっていくにつれ、単純な組立工程は、より労働力の安価なラオスやカンボジアなどに流れることが予想される。すなわち、人件費だけを強みにしていたこれまでのベトナムの戦略は続けることが困難になる。インフラの高度化や、労働者のスキル向上などにより、付加価値の高い工程を担当することができなければ、これ以上のベトナム経済の発展は望めない。

このような状況において、ベトナム政府はさらなる工業化を進める政策を打ち出しているものの、物価上昇や不動産バブルを鎮静化するために行った金融引き締め策により、ベトナムでは経済成長が鈍化する状況が続いている。産業の高度化、高付加価値化の実現には、もうしばらく時間を要するものと思われる。

一方でADB(アジア開発銀行)などの国際機関、および日本をはじめとする各国の支援により、道路や空港、港湾などの交通インフラの整備が各地で進められている。特にハノイ市やホーチミン市では、新しく整備される空港や港湾などのインフラにより、人やモノの流れが変わり、それに応じて工業団地の立地優位

性も変化する状況となっており、省間の成長競争が激しさを増している。ホーチミン市の例を挙げると、市の北隣に位置するビンズン省は、これまで多くの工業団地を供給し、企業誘致を積極的に行うことでベトナム南部地域の産業発展をリードしてきた。しかし、ホーチミン市の東に位置するバリア・ブンタウ省に新たな国際港湾が昨年開港し、ドンナイ省には2020年に新たな国際空港が整備される予定である。ビンズン省は、これらの動きに伴って、港湾や空港に近い工業団地へ企業立地がシフトすることに危機感を持っており、南部経済回廊を経由してカンボジア方面へアクセスできる優位性を生かした、新たな生き残り戦略を進めようとしている。

上述のように、現在ベトナムは経済成長が鈍化している中、国としてはさらなる工業化を実現するための方策・役割を探している。また、各省は環境変化の中、経済成長を競い合う状況となっていることから、その成長の切り札として日系企業を誘致する動きは今後ますます強まると見込まれる。日系企業は、このような環境を生かして、ベトナム側が期待している産業の高度化や技術移転を伴う工程を示しつつ、進出に伴うインセンティブをうまく引き出すことが肝要である。加えて、南部経済回廊・東西経済回廊におけるベトナムの現在および将来の位置づけと役割を冷静に見極めつつ、ハノイ市・ホーチミン市を起点として拡大が見込まれる消費市場としてのベトナムに対する取り組みを強化すべきである。

<プロフィール>



山野 泰宏
(Yamano Yasuhiro)
総合研究部門
社会産業デザイン事業部
グローバル・インフラ戦略グループマネジャー

大手建設会社勤務を経て、株式会社日本総合研究所入社。

主にインフラ・都市開発、PPPに関するコンサルティング業務に携わり、近年はインド、ASEANに関する調査、コンサルティング案件に従事している。

情報を更新し、さらに読みやすくしました!

海外赴任2014 リロケーションガイド



エヌ・エヌ・エー
リロケーション・インターナショナル

附
すぐに役立つ
データ集



A5判/288ページ

CONTENTS

- 第1章 赴任の手続き
- 第2章 住宅
- 第3章 引越
- 第4章 健康管理
- 第5章 子育て・教育
- 第6章 赴任地での暮らし
- 第7章 帰国
- 附録 データ集

海外生活の
準備に!